



山本雅基著
実業之日本社
1,680円（税込）

山谷でホスピス始めました。 「きぼうのいえ」の無謀な試み

東京都台東区の「山谷」に、「きぼうのいえ」という個人運営のホスピス施設がある。ホスピスとはいえ、診療は外の病院への通院、もしくは医師や看護師による訪問にて行われる、いわゆる「在宅ホスピス」という形をとった、集団生活の場である。本書は、この「きぼうのいえ」の設立までの経緯とそこでの生活の風景を、施設長の山本雅基さんが1冊の本として出版したもの。

山本さんは、「きぼうのいえ」への入居者を「身寄りがなく、行き場を失った、余命に限りがあるひとたち」に限っている。運営は、主に彼らが行政から受けている生活保護と、協力団体等からの寄付やボランティアによって支えられている。一般的な価値観においては、彼らの境遇は「不幸」の部類に入るのかもしれない。しかし、写真の中の入居者たちの生き生きとした表情からは、確かに「幸福」が感じられる。彼らの強さ、そして困難の連続の中、それを支えるスタッフの方々の努力には頭が下がる思いだ。（天）